

# 2026年度以降の検討課題について

2026年5月13日  
電力広域的運営推進機関

- 運用容量検討会にて検討する運用容量算出における課題については、毎年5月の運用容量検討会にて設定している。
- 今回、2026年5月の運用容量算出における課題の設定に向けて、2025年度に実施した運用容量算出における課題の検討状況を踏まえて、2026年度以降の検討課題を整理した。

■ 2026年度以降の課題の検討に対して、目的・内容・検討状況等を下表のとおり、整理した。

		課題名	目的	内容	幹事会社 (協力会社)
1	継続	熱容量の適用期間細分化	再生出力制限量の低減、電力取引の活性化等を図ること。	全ての連系線（設備容量が制約となる直流設備除く）を対象として、熱容量の適用期間を現状よりも更に細分化することの可否について検討する。	四国、電発 (各社)
2	継続	広域系統整備計画による地域間連系線・連系設備増強に向けた運用容量の整理	広域系統整備計画により増強される予定の地域間連系線・連系設備の運用容量を整理する。	広域系統整備計画により増強される北海道本州間連系設備・東北東京間連系線・東京中部間連系線について、運用容量の検討条件や算出方法について検討・整理する。また、中地域交流ループにおいて新たな課題が発覚した場合は、その内容について検討・整理する。	北海道、東北、 東京、中部、 北陸、関西
3	継続	フリンジ算出方法の見直しについて <sup>1)</sup>	フリンジ（計画潮流と実績潮流の差）の実績を分析し、必要に応じてフリンジの設定方法を見直す。	計画潮流が実績潮流に追従するまでの偏差分の不要データの除外について検討する。また、PVや調整力調達量、2026年度より運用開始となる広域LFCとフリンジの関係性を確認する。	東京、中部、 広域 (各社)
4	継続	作業時の中国九州間連系線（中国向）の運用容量への揚水織込みについて <sup>2)</sup>	BGとTSOの揚水計画を確認し、翌々日計画断面で運用容量へのポンプ量織込み、スポット市場での活用する。	2024年度の運用では長周期で組み合わせた蓋然性のあるポンプ量を織込むことと整理した。 BGポンプ計画と実績を確認し、翌々日断面で運用容量拡大によるスポット利用量拡大について運用方法を検討する。	中西6社、広域

- 1) 将来の運用容量等の在り方に関する作業会にて提起され、運用容量検討会が主体で検討する課題
- 2) 運用容量検討会が主体で検討し、調整力及び需給バランス評価等に関する委員会で報告する課題